**平成２７年度**

**曽於地区へき地・小規模校教育連絡協議会**

**研究委嘱校　研究公開**

【研究主題】

チーム力で学校を活性化させる校内研修の在り方

～自他ともに高め合う合同学習の実践を通して～

※　表紙の写真　削除済です。

**平成28年2月4日（木）**

**曽於市立恒吉小学校**

**研究委嘱校研究公開を開催するにあたり**

曽於市立恒吉小学校

校長　　○○　○○

　この度，平成27年度曽於地区へき地・小規模校教育連絡協議会研究委嘱校研究公開（以下委嘱公開）を，本校で開催することになりました。

　さて，次期学習指導要領の改訂が進む中，社会の変化を柔軟に受けて止めていく「社会に開かれた教育課程」の具体化が求められています。この理念を具体化するためには，学習・指導方法や評価の在り方との一貫性をもって議論し改善していくことが必要です。

　本校では，委嘱公開を推進するにあたり，これまでの本校の研究授業の記録及び職員への校内研修に関するアンケート等を精査しました。

　その結果，一人一人の教職員の力を結集させ，より質の高い教育活動を展開するために，教職員の資質向上のための中核である校内研修の充実を図る必要があると考えました。

さらに，本校の強みである個に応じた指導を充実するために，各学級の人数の少なさを強みに変える手だてとして，学習を集団化するとともに，教職員の専門性・個性を生かした指導の効率化を推進することが必要であると考え，全員が関わる合同学習に着目し，研究を進めることにしました。

校内研修の充実では，P（プラン），D（実践），C（検証），A（更新）いわゆるPDCAサイクルを実効性のあるものとするために，研究授業等の教育活動を「Keep（よいところ），Problem（問題点），Try（改善策）」の３つの視点から検証し，更新を図るシステムに着目しました。

具体的には，Keep，Problem，Tryの頭文字をとって，「恒吉KPT」と名付け，付箋紙を活用したワークショップ型検討会を通して，質の高い教育活動の創造を目指しました。

また，合同学習では，道徳，音楽，体育等の研究授業及び合同図工・合同学級活動を通した実践的研究に取り組んできました。

これらの研究を通して，「一人一人の教職員の力を結集した共同思考の場面が増え，同僚性が向上しつつある。」「市合同音楽発表会に向けた合同音楽等の取組における学年相互の学び合いを通して，『できる』喜びを味わう子どもの姿が見られる。」等，一定の成果をあげることができました。

しかし，「恒吉KPTの取組以外の授業研究の在り方」「恒吉KPTの取組の教育課程への反映のさせ方」「自他ともに高め合う協同的な学習の在り方」等様々な課題が残されているのも事実です。

これらのことを踏まえ，本日の公開研究会では，参加者の諸先生方に，本校の研究に対し，忌憚のない御意見をいただければと思う次第です。

最後になりますが，本研究を推進するにあたり，懇切丁寧に御指導・御助言をいただいた大隅教育事務所並びに志布志市教育委員会，曽於市教育委員会，曽於地区へき地・小規模校教育連絡協議会事務局関係各位の方々に，お礼を申し上げます。

【目　次】

I　研究主題について

１　研究主題設定の理由１

２　研究主題のとらえ方１

II　研究仮説３

III 研究内容３

IV　研究の実際

１　学校を活性化させる校内研修

(1)　PDCAサイクルを機能させる授業検討会「恒吉KPT」４

(2)　恒吉KPTが確立するまでのステップ５

(3)　恒吉KPTの基本的な進め方と実施上の留意点６

２　自他ともに高め合う合同学習

(1)　合同学習の目的７

(2)　合同学習を進める上での３つの視点と手立て７

３　恒吉KPTを活用した合同学習授業実践

(1)　第1回研究授業（道徳）８

(2)　第２回研究授業（音楽）９

(3)　第３回研究授業（体育）１０

V　研究の成果と課題１１

１　成果

２　課題

　※　おわりに　研究同人　参考・引用文献

I　研究主題について

チーム力で学校を活性化させる校内研修の在り方

～自他ともに高め合う合同学習の実践を通して～

**１　研究主題設定の理由**

　本校において，「複式指導」などの共通する課題は，教員全員の協力の下，定期的に研修の機会がもたれている。また，職員数が少ないことから，職員同士のきめ細やかな情報交換等の連携はよくなされている。しかし，日常的には教科の指導計画や教材研究，学級の行事の企画運営など一人での実践が多くなり，教師相互の連携や意見交換などの機会はそれほど多いとは言えない。そのため，協働による組織的な練り上げの場が少なくなり個人に委ねられることが多くなりがちである。

さらに，昨年度の研究の反省・授業記録等を精査すると研究の継続性・発展性，教材研究や指導案検討，研究授業後の検討が十分でないことが挙げられた。校内研修は，学校の教育課題を解決し，質の高い教育活動を具現化する取組である。これらのことを踏まえると，校内研修のさらなる充実を推進することは，本校にとって，喫緊の課題である。

また，本校における多くの学習活動は，少人数で構成される。固定化した人間関係の中で学習が繰り広げられるため，学級の学習活動だけでは，子どもたちの思考を多様化させ，主体的に検討し合うような場の設定が難しく，子どもたち相互の質の高い練り上げが，なかなかできない状況にある。このことから，子どもたちの学習に活力を生むと思われる学級の枠を取り払った合同学習に焦点を当て，実践研究を進めることが必要であると考えた。

以上のことを踏まえ，本校の強みである職員のチームワークのよさを生かし，校内研修を充実させ，本校のような極小規模校において，学習に活力を生む実践はどうあるべきかを検証していくことは，本校の実態を踏まえると大変有意義なことであると考えた。

そこで，研究主題を「チーム力で学校を活性化させる校内研修の在り方」サブテーマを「自他ともに高め合う合同学習の実践を通して」と設定し，研究実践に取り組むことにした。

**２　研究主題のとらえ方**

「チーム」とは，達成させるべき目標を実現するための集団である。「チーム」は，グループとは異なり各メンバーの力の総和を超える成果を全体で出すことが期待できる。

　現在，学校に求められる課題は，多様化している。組織体として，学校が機能するには一人一人の職員の専門性を生かし，職員間の連携を密にしていくことが必要であると考える。本校の強みである職員の連携のとりやすさを生かし，一人一人の発想を校内研修に生かすことは，本校の教育課題解決につながると考えた。

**「学校を活性化させる」とは**

　本校は，「学校を活性化させる」とは，以下のようにとらえた。

「学校を活性化させる」とは，単に子どもに元気があるということではなく，教職員一人一人がやりがいをもち，日々の学習指導にあたるとともに同僚の教職員と共に支え合いながら日常的に学び合うことで，活力ある学校の雰囲気を作り出すことであると考えた。また，子どもたちと接する中で，子どもたちも，「学習が楽しいな」「また，やってみたいな」等の主体的な態度を発揮し，他者と協働的に関わることが期待される。さらに，本校は，学校が活性化された姿を職員・子どもの姿から以下のようにとらえて，研究を進めてきた。

**【職員の姿】**

　　教職員が各自の立場から自分のできることで，授業設計に関わることを通して，教職員間のコミュニケーションが活性化され，風通しのよい職場の雰囲気が醸成されている姿

* 職員間で，授業・学級の子どもたちのことで気軽に相談できる場
* 職員間で，授業に必要なものについて，ともに考えたり，創ったりする時間

**【子どもの姿】**

　　　教職員の合同学習等における協働体制を通して，学習に見通しをもちめあてをもって友達と主体的・協働的に学習に取り組む子ども

|  |  |
| --- | --- |
| 学年部 | めざす子ども像 |
| 低学年 | 中・高学年の教えをもとに，自分の考えを深め，自信をもって学習成果を表現する子ども |
| 中学年 | 高学年の教えや，低学年に既習経験をもとに教える活動を通して，自分の考えを深め，相手意識をもって学習成果を表現できる子ども |
| 高学年 | 低・中学年に，既習・生活体験をもとに，目的意識をもって教える活動を通して，自分の考えを深め・広げる子ども |

**「自他ともに高め合う合同学習」とは**

本校では，研究を進めるにあたり，合同学習を次のようにとらえることにした。

|  |
| --- |
| 合同学習とは，同一学校において２つ以上の学級が合同で学習することであり，特に音楽，体育，図画工作などの教科等で学級の枠を超えて，全校の子どもたちが，同時に同教材で学習すること  （宮崎県教育委員会（2012）「複式学級を有する学校のために～複式学級指導資料～」） |

本校は，「自他ともに高め合う合同学習」について以下のようにとらえ，研究を推進してきた。

各学年に応じた技能等を身に付け，互いに伝え合おうとする子ども

相手に伝わるように話す

相手の話を最後まで聴く

**子どもの姿**

学習の集団化

（共通理解）

指導の効率化

（指導体制の工夫）

学級の学びを基にした

練り合いの場の設定

**教師の手だての工夫**

**合同学習**

**II　研究仮説**

**【研究仮説①　学校を活性化させる校内研修】**

校内研修において，職員一人一人が主体的に課題・問題点を出し合い，改善策を共有できる場を数多く設定することで，職員の同僚性が向上し，学校全体が活性化していくのではないか。

**【研究仮説②　自他ともに高め合う合同学習】**

　合同学習において，学習の集団化を図るとともに教師間の役割分担を明確にして，個別指導の充実を推進すれば，子どもたちは，自分及び他者のよさに気付き，自他ともに高め合うのではないか。

**III　研究内容**

**１　学校を活性化させる校内研修**

(1)　PDCAサイクルを機能させる授業検討会「恒吉KPT」

(2)　恒吉KPTが確立するまでのステップ

(3)　恒吉KPTの基本的な進め方と実施上の留意点

**２　自他ともに高め合う合同学習**

(1)　合同学習の目的

(2)　合同学習を進める上での３つの視点と手だて

【視点１】指導体制の充実→視点1に対する手だて

【視点２】人間関係力を伸ばす指導内容→視点２に対する手だて

【視点３】自己，相互評価　→視点３に対する手だて

**３　恒吉KPTを活用した合同学習授業実践**

(1)　第1回研究授業（合同道徳）（平成27年 ６月17日）

(2)　第2回研究授業（合同音楽）（平成27年10月21日）

(3)　第3回研究授業（合同体育）（平成27年11月５日）

**IV　研究の実際**

**１　学校を活性化させる校内研修**

1. **PDCAサイクルを機能させる授業検討会「恒吉KPT」**

本校は，校内研修の核となる「授業研究」について，図１のようにとらえ，研究に取り組

んだ。

**授業研究**

日常の

授業

Action

授業

検討会

Check

研究

授業

Do

指導案

検討

Plan

**図１　本校の授業研究のとらえかた**

本校は，授業研究のCheckの段階での改善策の共有が大切であると考えた。なぜなら，授

業検討会において，改善策の共有ができるか否かが組織としての課題解決力に影響を与えるからである。そこで，本校は活動の課題・改善策の速やかな共有を図るためのシステム「KPT

（ケプト）」を取り入れた。その中で，本校なりにアレンジしたものを「恒吉KPT」と名付けることとした。

「恒吉KPT」の最大の特徴は，「短時間（15分）で，Keep，ProblemからTryを出し，

効率的かつ速やかに共有する。」ことにある。

「KPT」（ケプト）は，授業検討会の３要素である

**≪Keep⇒よいところ≫ 　≪Problem⇒問題点≫ 　≪Try⇒改善策≫**

　の頭文字をとった用語である。

恒吉KPTと従来の授業検討会との違いを図２に示す。

**【従来の授業検討会】**

先行研究を分析すると，授業研究会では，「よいところ」や「問題点」に焦点を当てた討議が多くなりがちで，「改善策」を共有し，日常の実践につなげるまで至らない例が散見される。

**【恒吉KPT】**

｢チェック」（授業検討会）の段階で，教師間の連携に関して短時間でふり返れるよう，恒吉KPTを活用し，一人一人の教職員の指導力向上を効率的に図っている。

｢改善策」まで導くことを必達目標とすることで，PDCAサイクルを機能化させることをめざした。

**次のサイクルへ**

**図２　PDCAサイクルを推進する恒吉KPT**

恒吉KPTは協議を活性化させるために，４人程度の人数での検討を前提としている。内容は図３に示すとおりである。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **Keep**（よいところ） | **Problem**（問題点） | **Try**（改善策） |
| 1.jpg | 2.jpg | 3.jpg |

**図３　実際の恒吉KPT**

**(2)　恒吉KPTが確立するまでのステップ**

　 　本校は，研究授業，指導案検討，模擬授業等で恒吉KPTを活用した授業研究を推進し，｢恒吉KPT」の検証・改善に取り組んできた。

以下，恒吉KPTが確立するまでのステップをKPTで示している。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **０** | Problem | Try |
| ・　効率的に気軽にKPTに取り組みたい。 | ・　15分で実施する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **１** | Keep | Problem | ※　写真は削除しています。 |
| ・　15分の時間でも実施可能である。 | ・　事前の準備が十分でない。 |
| Try | |
| ・　研究授業後すぐの授業検討会  ・　授業中，子どものふり返り時間を活用して準備をする。 | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **２** | Keep | Problem | ※　写真は削除しています。 |
| ・　授業後速やかに行うことが効果的である。 | ・フォーマット（視点での区切りかフリーか）の在り方 |
| Try | |
| ・　フォーマットをシンプルに使いやすく  ・　ファシリテーターが扱いやすく。 | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **３** | Keep | Problem | ※　写真は削除しています。 |
| ・　シンプルなフォーマットが使いやすい | ・　Tryへの導き方（ファシリテーターの技能） |
| Try | |
| ・　誰でも安定した進行が可能となるファシリテーターマニュアルの作成 | |

**(3)　恒吉KPTの基本的な進め方と実施上の留意点**

恒吉KPTの進め方及び実施上の留意点等は，図４に示すとおりである。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間** | **進め方等** | **実施上の留意点** |
| 事前 | 付箋紙への書き込み  ６校時研究授業実施の場合の児童の下校 | ・　授業中の子どもたちがふり返りを行う時間等を利用して，可能な限り付箋紙への書き込みを行う。  授業前に帰りの会を行い，担任以外の職員が下校指導を行うことで，授業後すぐにKPTを行える。 |
| ０分  ↓ | １ 検討会の目的と進め方を確認 | ・　｢Keep」「Problem」を出し合い，有意義な「Try」を見つけていく。  ・　15分で最低ひとつのTryを出す。 |
|  | ２　 授業検討 |  |
| ２分  ↓ | (1) 参加者相互でKeepを出し合う | ・　授業のよかった点を確認する。よい雰囲気をつくり出す。KeepからTryはないか協議する。なお，利点をさらに伸ばすという視点も大切にする。 |
| ５分  ↓ | (2) 参加者相互でProblemを出し合う | ・　T１から出していく。まずは，主たる授業者の考え，反省から話し合いを広げていきたい。  ・　出された意見と同類のものは，各自随時提示していくよう促す。  ・　Tryがあれば，その場で協議する。  ・　同じように次々とProblemについて協議し，Tryに導く。 |
| 12分  ↓ | (3) ファシリテーターを中心にTryをまとめる。 | ・　出されたTryの中から必ず達成すべき改善策を最低ひとつは，決める。  ・　複数挙げられたものの中から「どれにしますか。」ではなく話し合いの中で，全員の意思統一が図られるのが理想的である。 |
| 事後 | 共有・保存 | * ファシリテーターが写真に撮り，デジタル化し，共有フォルダに保存する。 |

**図４　恒吉KPTの進め方（ファシリテーターマニュアル）**

また，恒吉KPTの用具等，基本フォーマットを以下の表１のように規定している。

|  |  |
| --- | --- |
| 時　間 | 15分 |
| 用　紙 | 【フレームワーク】　それぞれ四つ切り用紙（392×542mm）を縦置き |
| 付　箋 | 75 mm×50 mm横置き　K（ピンク），P（ブルー），T（グリーン） |
| 文字数 | できるだけで簡潔に |
| 留意事項 | 同じ視点のものは，横にそろえて貼る。矢印など補足する。 |

**表1　恒吉KPTフォーマット**

**２　自他ともに高め合う合同学習**

**⑴　合同学習の目的**

学級の枠を取り払い，多人数での学びの場を設定することで，子どもたちが多くの考えにふれる機会をもち，ものの見方・考え方を深めたり広げたりするとともに多人数であることの相乗効果から各自のもつ能力を最大限に発揮できることを期待するものである。

**⑵　合同学習を進める上での３つの視点と手だて**

本校は，合同学習を円滑に展開するためには，子どもたちが多人数でも安心して，学習に取

り組めるような手だてを工夫することが必要であると考えた。そこで，合同学習において，以

下の３つの視点を設定し研究，実践に取り組んだ。

**【視点１】指導体制の充実**

**子どもたちにきめ細やかな指導を展開するための教師間の指導体制**

　　　　［視点１に対する手だて］

　　　　　○　教師の役割分担を明確にした指導計画の作成・検証

　　　　　○　きめ細やかな指導ができる配置の工夫

　　　　　○　学級での実態を共有する担任会

**【視点２】人間関係力を伸ばす指導内容**

**子どもたちが，人と関わる力を伸ばすことができるような場，目標の設定**

［視点２に対する手だて］

　　○　グループで話し合う場の設定

　　○　人との関わりにおける個人目標の設定

　　○　各学年の発達段階に応じた教材・教具等の工夫

**【視点３】自己，相互評価の工夫**

**自分や他者のよさを自覚することができるような場の工夫**

　　　　［視点３に対する手だて］

　　　　　○　自分や他者のよさやがんばりを見合う場の設定

○　友達のよさやがんばりを伝え合う場の設定

**３　恒吉KPTを活用した合同学習授業実践**

**⑴　第1回研究授業（平成27年６月17日）　道徳：主題「ゆるすこと」（資料　「思いやり」）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 授業の視点 | ・　話合い活動において，お互いの思いや意見を交流できているか。 | |
| 視点にせまる手だて | ・　全校の子どもたちを縦割りの４つのグループに分け，５・６年をリーダーとして各グループに配置する。  ・　T２，T３が分担して２グループずつ見取るようにする。 | |
| 授　業　の　実　際（○成果，●課題） | | |
| **縦割りグル－プによる学習形態**  ※　写真は削除してあります。  【**図５】　縦割りグループでの話合い活動**  ○　グループごとの話合いの活動においては，５・６年　が進行役を務め，グループの意見をまとめていくようにした。学級での学習の中では，聞き役に回ってしまうことが多い子どもも，リーダーとしての役割を果たすことができた。  ●　話合い活動の進行に慣れていない子どもたちにとっては，話合いを進めていくことが難しく，うまくまとめられない場面も見られた。進行の仕方についてのマニュアルを準備するなどの手だてが必要である。  **子どもの思いを引き出すための手だて**  ○　T２・T３の二人で役割演技のモデルを示すことで，　子どもたちに見通しをもたせることができ，その後の子どもたち同士の役割演技もスムーズに進めることができた。  ※　写真は削除してあります。  **【図６】　T２・T３による役割演技** | | |
| **恒吉KPT** | | |
| **Keep** | | **Problem** |
| ・　縦割りのグループ編成により，高学年が低・中学年をまとめていた。 | | ・　教師の役割分担がわかりにくかった。  ・　人との関わりについての個人の目標が明確にされていないため，評価が難しかった。 |
| **Try** | | |
| **教師の役割分担を明確にする。** | | |

**⑵　第２回研究授業（平成27年10月21日）　音楽：題材「リズムにのってえんそうしよう」**

**（教材　「おもちゃの兵隊のマーチ」）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 授業の視点 | ・　Tryより教師の役割分担を明確にし，個別指導の充実が図れているか。  ・　子どもたちが自分や他者のよさに気付くことができているか。 | |
| 視点にせまる手だて | ・　T１が全体指導を行い，T２・T３・T４がそれぞれのパートを分担して見取るようにする。  ・　学習の終末において友達のよさやがんばりを付箋紙に書き，発表する活動を取り入れる。 | |
| 授　業　の　実　際（○成果，●課題） | | |
| **教師の役割分担の工夫**  ○　パート練習の際には，T１が各パートを見て回り，それぞれのパートの担当と練習状況について情報交換をしながら，進めていくようにした。T１～T４がパートを分担して指導にあたることで，すべてのパートを細かく見取ることができた。    **自分や他者のよさやがんばりに気付くための手だて**  ○　友達のよさやがんばりを付箋紙に書き，発表する活動を取り入れたことで，時間を追うごとに友達のよさやがんばりをたくさん見つけられるようになっていった。友達のよさやがんばりを見つけたり，自分のよさやがんばりを見つけてもらったりすることで，子どもたちも喜びを感じることができ，次の学習への意欲付けとなった。  ●　よさやがんばりを書く際に，学年に応じた視点を与えてから書かせる必要がある。  ※　写真は削除してあります。  **【図７】　パ－ト練習**  ※　写真は削除してあります。  **【図８】　一覧表に付箋紙を貼る児童** | | |
| **恒吉KPT** | | |
| **Keep** | | **Problem** |
| ・　パートごとに分担して指導したことで，子どもたちを細かく見取ることができた。  ・　自分たちの演奏を録画し，視聴することで，自分や他者のよさや課題に気付くことができた。 | | ・　合同学習において，各学年の指導内容を取り入れながら，いっしょに活動を進めていくことが難しい。 |
| **Try** | | |
| **合同学習と各学級での学習を組み合わせた指導を展開していく。** | | |

**⑶　第３回研究授業（平成27年11月５日）　体育：単元「コーンポートボール」**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 授業の視点 | ・　教師の役割分担を明確にし，個別指導の充実が図れているか。  ・　Tryより各学年の指導内容をおさえられた合同学習になっているか。 | |
| 視点にせまる手だて | ・　T１が全体指導を行い，T２・T３・T４が２チームを分担して見取るようにする。  ・　合同学習　→　各学級での学習　→　合同学習という流れで活動を進め，技能面の指導については，主に各学級の学習で行うようにする。 | |
| 授　業　の　実　際（○成果，●課題） | | |
| **教師の役割分担の工夫**  ○　全校子どもたちを２チームに分け，さらに各チームを上学年チームと下学年チームに分けて活動を進めた。作戦についての話合いや練習の際は，各チームにごとに分担して指導にあたることで，各チームを細かく見取ることができた。  **指導計画の工夫**  ○　合同学習だけでは，各学年の指導内容をすべて指導していくことは難しい。そこで，導入を合同学習で実施し，ゲームのルールの確認やチームの作戦についての話合い，試しのゲームを行った。その後，各学級での学習において，それぞれの学年で身に付けるべき技能面の指導を中心に行うようにした。合同学習における試しのゲームをしたことで，子どもたちが自分の課題を見つけることができ，その後の学習に見通しをもつことができた。  ●　合同学習の中で，異学年が共に同じ活動をしていく中で，各学年の指導内容を十分に押さえていくことができなかった。  ※　写真は削除してあります。  **【図10】　コ－ンポ－トボ－ルのゲ－ム**  ※　写真は削除してあります。  **【図９】　作戦についての話合い** | | |
| **恒吉KPT** | | |
| **Keep** | | **Problem** |
| ・　十分な人数でのゲームができ，ゲームの楽しさを味わうことができた。  ・　上の学年と共に練習やゲームをすることで，より高いレベルの活動ができた。 | | ・　合同学習の中で，各学年に応じた技能面等の指導をすることが難しい。 |
| **Try** | | |
| **合同学習の中で，各学級に分かれて活動する時間を設定していく。** | | |

**V　研究の成果と課題**

**１　成果**

* 校内研修に，全校体制で取り組むことで，職員間の同僚性を高めることができた。
* 恒吉KPTを通して，より意図的・継続的な研究を推進することができた。
* 恒吉KPTを行事の反省等にも生かすことができた。今後も活用していきたい。
* 合同学習の授業づくりを通して，学習指導要領を精読することの大切さを再認識することが

できた。また，先行研究が少ない中で，本校なりの合同学習の指導案の形式を作り上げた。

* 合同学習の実践を通して，教師間，子ども間，教師と子ども間がより親密になり，コミュニ

ュケーション力の向上につながった。

**２　課題**

* 今後，日常の授業の振り返り等に恒吉KPTを気軽に活用していく環境を整えたい。
* より機能的な恒吉KPTをめざすために，ファシリテーターの技能を明らかにし，身に付け

る手だてを探る必要がある。

* 恒吉KPTで集約した改善策を次年度の計画に速やかに反映させるシステムの在り方を探る

必要がある。

* 本年度作成した指導計画等を活用し，より質の高い合同学習の在り方を探る必要がある。
* 合同学習で，学習の集団化を推進するために，学習のしつけの在り方を探る必要がある。

**［おわりに］**

本年度，本校は，自他ともに高め合う合同学習の在り方について，恒吉KPTを活用し，研究を進めてきました。校内研修・合同学習ともにまだ課題はありますが，２つの相乗効果により学校をさらに活性化させる可能性を感じました。これからも課題を一つ一つ解決しながら，チーム恒吉として，教職員の和を大切にし，より実践的な研究に取り組んでいきます。

最後になりましたが，本校の研究推進にあたり，御指導していただいた大隅教育事務所や曽於市教育委員会，志布志市教育委員会，曽於地区へき地・小規模校教育連絡協議会事務局をはじめ，多くの関係者の方々に心から感謝申し上げますとともに，今後とも御指導・御支援の程，よろしくお願いいたします。

平成28年2月

曽於市立恒吉小学校職員一同

**【研 究 同 人】**

※　個人情報の観点から削除しています。

**【参考・引用文献】**

* 文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説」音楽編，体育編，道徳編
* 鹿児島県総合教育センター(2011)「授業力を高める校内研修の在り方」

○ 宮崎県教育委員会(2012)「複式学級を有する学校のために～複式学級指導資料～」